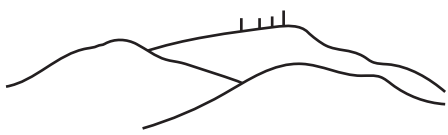


Youth Manna

2020/9/7 - 9/13



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/9/7(月)

ルカ 22:14-23

十字架の前日、イエス様は弟子たちと過越の食事をされました。

モーセの時代に、神様のさばきが過ぎ越され、エジプトの支配から救われたことを記念して祝われていた祭りは、今やイエス様の十字架によって信じる私たちの上に成就しました。

パンは、私たちのために与えられるイエス様のからだを。杯は、私たちのために流される、イエス様の血による契約を表します。

今、それぞれの場所でイエス様の十字架を覚え、賛美と祈りをもって礼拝しよう。自分が遣わされている場所に、イエス様が治める神の国が来ますように祈って出て行こう！

2020/9/8(火)

ルカ 22:24-38

ペテロの裏切りを告げるイエス様は、同時に「あなたの信仰がなくならないように祈りました」と告げられ、「立ち直ったら」と使命を与えられました。

私たちは試練そのものがなくなれば良いのにも思うかもしれないけれど、神様は試練をくぐり抜けて立ち直り、成長した私たちの姿を見てくださっています。試練で試された信仰は金よりも高価なものとなります(1ペテ 1:7)。

「キリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。」(ローマ8:34)

問題や困難に直面するとき、イエス様が祈ってくださっていることを思い出そう！今日も信仰を働かせて歩めるように祈ろう！

2020/9/9(水)

ルカ 22:39-53

十字架の苦しみは単なる肉体的苦痛ではない。罪なき神の御子が罪を背負い、父なる神から見捨てられるという苦しみでもあった。

イエス様は、十字架の苦しみを「みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください」と、汗を血の滴のように滴らせるほど祈った。しかしそれは「私の願いではなく、みこころがなりますように」と、神様に対する絶対的な服従を表す祈りであった(42)。イエス様は、父なる神様にすべてを明け渡したことで、襲いかかる苦しみに勝利した。

今苦しみがあるなら、それは抱えている問題のせいではなく、その苦しみを神様に明け渡すことができないからである。神様にすべてを明け渡し、自分の願いではなくあなたの御心がなりますように、と祈ろう！

2020/9/10(木)

ルカ 22:54-71

鶏が鳴くまでに3度イエスを知らないと言うと預言されたペテロは否定したが、イエスの仲間だと詰め寄る人たちに對し、知らないと言った。イエスの弟子として間近で歩んでいたペテロでさえこの様な行動をとってしまった。

3度目の瞬間、イエスは振り向いてペテロを見た。それは非難する眼差しではなく、裏切りを知っておられても、悔い改めて立ち返ることを信じてのことだろう。

イエスは全てを捨てられて私たちのために十字架の道を歩まれた。私たちは何を捨て、何を明け渡すことができるだろうか。

2020/9/11(金)

ルカ 23:1-12

僕たちが日本に住んでいる以上、日本の法律に従わないなら裁かれる。イエス様の時代、イスラエルはローマの支配下にあったから、ローマの法をやぶると裁かれた。ユダヤ人の偉い人たちは何としてもイエス様を殺したかった。しかし、イエスはローマの法律を何も犯していなかった。そこで、ユダヤ人の偉い人たちは罪をねつ造することにした。イエスはカエサルに税金を納めることを禁じていない。むしろ、「カエサルのもものはカエサルに 20:15」と話していた。

正しい人がえん罪をでっちあげられるのはまるでドラマのような絶望的な展開だ。しかし、この状況は神の計画の一部であった。もちろん神様がユダヤ人の偉い人たちに嘘をつくように命じたのではない。人の罪を通してもお神の計画が進んでいったのである。

「神様によって導かれたな」という経験はあるかな？思い出してみよう。君が教会に来ているのは間違いなく神様の導きだね！

2020/9/12(土)

ルカ 23:13-25

ピラトは、イエス様になにも罪がないことを人々に伝えた。だけど、自分の立場が悪くなるのを恐れて、むちで打って釈放する、という中途半端な提案をしてしまった。さらにその後の人々の叫びに負けてイエス様を十字架につけるよう引き渡してしまったね。

人々への恐れがあると、正しいことを知っていてもそれができなかつたり、他のことでごまかそうとしたり、神様とすることよりも目の前の安全をとったりしてしまうんだ。

私たちの中にある「恐れ」はどんなものかな？それを神様のもとに預けてただ1人の主を恐れよう！

2020/9/13(日)

ルカ 23:26-43

イエス様と一緒に十字架にかけられた犯罪人の一人は、神様のことを恐れ、自分の悪を認めて、イエス様のあわれみを頼りにし、助けを求めました。イエス様は「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」と告げられました。死ぬ数時間前に救われたこの人は、その一生において、神様のために働いたことなど、何一つできていなかったかもしれませんが、神様の救いの御手は信じるどのような人にも伸ばされます。

私たちの近くにはまだ神様を知らず、下を向いて歩んでいる人が沢山います。その人たちに神様のことを語るのには私たちしか居ません。「教会に行こう」とその人を誘うことは難しいかもしれませんが、でもそれが信仰への第一歩となるならば、ためらわずに誘ってみよう！誘うことが難しければ神様の満ち溢れる愛によって親切に接しよう！